

【企画セッション】

参加費無料、事前申込不要

※ 通常セッションやハンズオン、チュートリアルセッションに参加ご希望の場合は、受付をなさってください。

【19日（金）開催】

15:00～18:30

- ◆ A-0 ◆ 第12回マイクロジオデータ研究会
「超スマート自治体（Government5.0）
～産官学の空間情報を結集したEBPMの実現に向けて～」

【20日（土）開催】

9:00～10:40

- ◆ A-1 ◆ 空間データ、提供します！
CSIS共同研究による空間データ利用

14:00～15:40

- ◆ A-3 ◆ 「全国小地域別将来人口推計システム」とその応用

16:00～18:00

- ◆ A-4 ◆ 2018年度初等中等教育におけるGISを活用した
授業に係る優良事例表彰（教育委員会主催）

【21日（日）開催】

9:00～11:00

- ◆ A-5 ◆ オープン x シチズンサイエンスによる市民協働と
次のステップに向けて（FOSS4G分科会主催）

12:20～14:00

- ◆ A-6 ◆ 自治体GISの動向を語る（自治体分科会主催）
- ◆ F-6 ◆ IoT×GISによるウォーターネクサスの見える化
（IoTとGIS分科会主催）

14:20～16:00

- ◆ A-7 ◆ 国際地図学会議（ICC）への日本からの貢献
－ICC2019東京大会の展望－
- ◆ B-7 ◆ 学生フリーテーマ発表会（若手分科会主催）
- ◆ F-7 ◆ 平成30年7月豪雨災害対応とGIS（防災GIS分科会主催）

◆ A-0 ◆

【第 12 回マイクロジオデータ研究会

「超スマート自治体 (Government5.0)

～産官学の空間情報を結集した EBPM の実現に向けて～】

オーガナイザー： 秋山祐樹

19 日 (金) 15:00～18:30 / 講堂

我々は 2011 年に「マイクロジオデータ研究会」を発足させ、マイクロジオデータ (MGD) の普及と利活用について産官学の有識者を中心に議論を行って来ました。MGD とは位置情報や時間情報を持つ時空間的に高精細な (例えば建物や人単位) データや統計の総称のことを言います。MGD は既存の各種統計・空間データでは実現し得なかった、時空間的にきめ細やかな分析や計画支援等への利活用が期待されています。

近年、MGD 研究会は MGD に関連した研究だけでなく、「実社会での活用」にフォーカスを当てた活動にシフトしつつあります。そこで第 12 回となります今回は、産官学が持つ多様な空間情報を結集し EBPM (Evidence Based Policy Making) を実現し、地域の継続的なスマート化の実現を目指す「超スマート自治体 (Government5.0)」の実現に向けた取り組みについて、産学官の有識者の皆様からご講演頂きます。さらに同活動を進めていく中で現在、「何がどこまで出来るのか」、「何がどうしても出来ないのか」そして今後「何をすべきか」ということをご紹介頂き、超スマート自治体実現への課題と今後取り組むべき活動について議論を深めたいと考えています。

◆ A-1 ◆

【空間データ、提供します！

CSIS 共同研究による空間データ利用】

オーガナイザー： 相尚寿

20 日 (土) 9:00～10:40 / 国際交流会館大会議室

東京大学空間情報科学研究センター (CSIS) は、共同利用・共同研究拠点「空間情報科学研究拠点」として、研究用の様々な空間データの提供とそれを利活用した研究の推進をミッションとする。CSIS ではそのミッションの中核を担うサービスとして共同研究を募集しており、オンラインで申請からデータ入手まで完了するシステムを

運用している。

本セッションでは、CSIS 共同研究による研究用空間データ利用の仕組みやオンラインでの申請方法を説明するとともに、実際に利用可能なデータを紹介する。また、CSIS 共同研究により空間データを利用している研究者から具体的なデータ利活用の方法や研究成果について話題提供する。取り上げるデータセットとしては「人の流れデータ」「道路ネットワークデータ」「マイクロジオデータ」「航空レーザ測量データ」を予定する。

◆ A-3 ◆

【「全国小地域別将来人口推計システム」とその応用】

オーガナイザー：岡部篤行・井上孝

20日（土）14：00～15：40／国際交流会館大会議室

本企画の共同代表の一人である井上は、2015年に標記システムの試用版、2016年に同正規版を公開した。このシステムは、全国21.7万あまりの小地域（町丁・字）を単位とする、長期（2015～2060年）にわたる日本全国の将来推計人口（男女5歳階級別）を、初めてウェブ上に公開したものである。このシステムの利用者は、推計人口をもとに算出された、人口密度等のさまざまな人口統計に関するコロプレスマップを閲覧でき、また、それらの人口をcsvファイルとしてダウンロードできる。周知のとおり、これまで将来人口推計で主に扱われてきたのは全国または自治体単位のデータであるが、このシステム上に公開されたデータは、それらを量的に圧倒しているため、これまで論じることのできなかつた様々な視点から日本の将来人口の動向を知ることができる。そこで本企画では、標記システムの概要を紹介したあと、それを応用した3～4本程度の研究成果を報告し、最後にフロアを交えた全体討議を行いたいと考える。

◆ A-4 ◆

【2018年度 初等中等教育における

GISを活用した授業に係る優良事例表彰】

オーガナイザー：貞広幸雄（教育委員会主催）

20日(土) 16:00~18:00 / 国際交流会館大会議室

2018年度初等中等教育におけるGISを活用した授業について、優良な事例を選定し、その表彰式を行う。

◆ A-5 ◆

【オープン x シチズンサイエンスによる市民協働と

次のステップに向けて】

オーガナイザー：瀬戸寿一 (FOSS4G 分科会主催)

21日(日) 9:00~11:00 / 国際交流会館大会議室

科学研究活動や科学政策に関する市民の役割の重要性について、古くは1980年代頃から「市民科学 (Citizen Science)」という語が重要視され始め、近年のオープンデータ政策やそれを担うICTを駆使したコミュニティ (シビックテック) の関わり、さらにはGIS分野でもOpenStreetMap等の台頭に伴い、市民が直接データ共有に関与する「ボランティア地理情報 (VGI)」概念の登場なども背景に、オープンサイエンスや市民との共創型研究に展開しつつあります。

2014年の企画セッション「オープンなGISはどこまで可能か?」以来起こってきた様々な活動のうち、オープンサイエンスに位置づけられる実践型研究の進展を背景に、オープン・シチズンサイエンス領域で実践的に活動されている方をお招きして、現状の到達点や今後に向けた課題について伺います。オープン・シチズンサイエンス領域の中で地理空間情報が有用であるのか?さらには、参加者に対する科学教育への配慮ややりがい搾取問題など、実践的活動を進展させ科学に結びつける上での課題について議論します。

< 予定登壇者 >

- 瀬戸寿一 (東京大学空間情報科学研究センター / FOSS4G 分科会)
「趣旨説明」
- 林和弘 (文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター)
「オープン・シチズンサイエンスの動向ーJapan Open Science Summit 2018等からみた概観 (仮)」
- 近藤康久 (総合地球環境学研究所)
「チームサイエンスにおける知識融合ツールとしてのGISの役割」
- 大澤剛士 (首都大学東京都市環境学部)
「搾取的でないコミュニティベースドな地図作成を考える」

-大学教育における挑戦-

- 西村雄一郎（奈良女子大学大学院人文科学系）
「大学教育における地理オープンデータ作成活動への参加とその現実」
- 金杉洋（東京大学地球観測データ統融合連携研究機構）
「登山者行動の計測と課題」

◆ A-6 ◆

【自治体 GIS の動向を語る】

オーガナイザー：浅野和仁（自治体分科会主催）

21日（日）12：20～14：00／国際交流会館大会議室

セッションの前半は、2013年から昨年度まで自治体分科会が取り組んできたG空間EXPO・Geoエデュケーションプログラムでのワークショップの実施に関わっていただいた関係者をパネラーに迎えて、これまでの活動を総括するとともに、自治体のGIS活用に及ぼした影響や、今後の自治体GISの課題や方向性について議論していただきます。

セッションの後半は、自治体GISにおけるパーソナルデータの活用について考えます。自治体分科会幹事からの話題提供の後、参加者の皆さんとグループディスカッションを行い課題の共有や、取り組むべき課題の抽出を行いたいと思います。

自治体GISの更なる活用を求めておられる皆さんのご参加をお待ちしています。”

◆ F-6 ◆

【IoT×GISによるウォーターネクサスの見える化】

オーガナイザー：巖網林（IoTとGIS分科会主催）

21日（日）12：20～14：00／11号館109

平成30年7月豪雨が西日本に甚大な被害をもたらし、気候変動、人口減少、社会インフラの老朽化が重なることによる災害の恐ろしさを思い知らされた。国も自治体も治水対策の見直しへ動いているが、持続可能な管理には治水に限らない総合的政策と技術のイノベーションが求められる。本セッションはネクサスの視点から水管

理の複雑性を捉え、IoT×GISによって水環境の見える化を行い、リアルタイムに情報収集、インフラ管理、サービスの提供を可能にする空間融合のプラットフォームを検討する。

◆ A-7 ◆

【国際地図学会議（ICC）への日本からの貢献

－ ICC2019 東京大会の展望 －

オーガナイザー：若林芳樹

21日（日）14：20～16：00／国際交流会館大会議室

2019年7月に東京で開催される第29回国際地図学会議（ICC2019）は、日本のGIS・地図学の成果を世界にアピールするショーケースになると同時に、海外の地図・GIS研究者と交流する絶好の機会になることが期待される。このセッションでは、1980年の東京大会を含めた過去のICC大会を振り返りながら、来年の東京大会に日本がどのように貢献できるのかを展望する。これにより、GIS研究と地図学との関係を再確認し、国内のみならず海外に向けた新たな連携を構築する契機としたい。とりあげる主要な話題は、以下の通りである。

- ・ 国際地図学会（ICA）と ICC
- ・ 1980年 ICC 東京大会の遺産
- ・ ICA 専門部会の活動からみた世界の地図学の動向
- ・ ICC2019 東京大会の展望：地図学と地理情報科学の融合

◆ B-7 ◆

【学生フリーテーマ発表会】

オーガナイザー：相尚寿（若手分科会主催）

21日（日）14：20～16：00／11号館 105

一般に学会などの学術発表では類似した研究テーマの発表がセッションとして集約されます。類似した興味を持つ参加者同士で意見交換が行える利点はありますが、パラレルセッション形式で進行する大会では異分野の発表に触れ、新しいデータや分析法に出会う可能性が限られてしまいます。

本セッションでは、特定の分野を定めず、広く研究発表を募集することで、異分野間での情報共有を目指しています。発表者は現役学生(学部生・大学院生)に限定し、事前に募集した発表概要をもとに若手分科会で投票を行い、得票数の多い内容について口頭発表と質疑応答の機会を設けます。

発表者、聴講者ともに自分の分野とは異なる内容に多く触れるため、新たなデータや分析法に出会う場になると期待しています。

なお、聴講者については制限を設けていないため、学生以外の研究者、実務者の方々も積極的にご参加をご検討いただきたいと思います。

● 赤松 哲也 (電気通信大学)

「新たな避難所を設定した場合の避難所の充足度評価方法」

● 間々田 夏菜子 (福岡工業大学) 「ダンボールジオラマ製作」

● 金會 勸 / 渡部 大輔 (東京海洋大学)

「船舶運航データを用いた環境負担評価」

● 大山 智也 / 雨宮 護 (筑波大学)

「環境要因と犯罪発生情報を組み合わせた犯罪予測手法の検討」

● 神田 兵庫 / 磯田 弦 / 中谷 友樹 (東北大学)

「日本の都市雇用圏における都市縮小の諸形態」

◆ F-7 ◆

【平成30年7月豪雨災害対応とGIS】

オーガナイザー：畑山 満則 (防災GIS分科会主催)

21日(日) 14:20~16:00 / 11号館 109

2018年(平成30年)6月28日から7月8日頃にかけて、西日本を中心に北海道や中部地方など全国的に広い範囲で記録された台風7号および梅雨前線等の影響による集中豪雨(平成30年7月豪雨)は、広範囲で記録的な豪雨となり、200人以上の死者・行方不明者を出す巨大災害となった。地理情報システム学会では防災GIS分科会が中心となり、災害支援活動を行ったが、同時に複数の地域で同様の水害・土砂災害が発生するという未曾有の災害に課題は多く残った。今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震での災害対応にも、大きな教訓を残すであろう平成30年7月豪雨の災害対応の課題と解決策について、支援活動関係者を中心に議論を行う。